



《第3回学習会 2020年1月18日(土) 新宿 大久保地区センター》

## 東学農民運動を知っていますか？

### －日本人の近代史認識の問題点と日韓条約

波多野

今日お話しするのは三つです。ひとつは日韓条約の問題点。そのつぎは韓国の民主化運動について。三つめは日本人の近代史認識、日本人がどのように近代史を学んで受け止めているかという話をしたいと思います。

#### 1. 日韓条約について

日韓基本条約・日韓請求権協定は1965年に結ばれました。結ばれるまで15年ぐらいかかっています。なぜそんなに長い時間がかかったかと言うと、いろいろ意見が合わなかったんですね。一番の問題点は歴史認識で、日本は自分たちが韓国を植民地にしていたことは合法的であると思っている、韓国の方はそもそも日本が無理やりに押し付けたのであって最初から合法的ではないと思っている、そこがまったく食い違っているわけです。もめている間に韓国では海に李承晩ラインを引いて、線の中に入った漁船をつかまえるということもありました。それから請求権問題、請求権問題と言うと韓国が植民地時代にひどい目にあったのでその賠償を請求するのだと思いますが、それだけではなくて日本が韓国に請求する、それは向こうに工場や会社を建てたりいろいろ財産があったのをみなほったらかして引き揚げてきたので、それを返せ、その賠償をしろという要求もあったんですね。いろいろ駆け引きがありました。ほかに文化財返還の問題もありますが、それは端折りまして、非常に難航し

#### 目 次

東学農民運動を知っていますか？	
－日本人の近代史認識の問題点と日韓条約	1
「雲を凌ぐ氣」－雨森芳洲、誠信の交わりをめざして	5
私にとっての「朝鮮通信使」「雨森芳洲」との出会い	7
地域の歴史を掘り起こす…埼玉での取り組み	8
江藤善章さんの講演を聞いて	10
日韓合同授業研究会第26回対馬交流会	

たのですが 1965 年になって妥結します。朴正熙大統領のときです。当時韓国は非常に貧しかったです。植民地時代の後遺症があるうえに 3 年間の朝鮮戦争で国中が焼け野原になって大変貧しくてお金が必要だったんですね。そのため歴史認識には目をつぶってとにかくお金さえもらえばいいというのが韓国政府の立場だったようです。日本の方はと言うと、最初から上から目線だったんですね。全然悪いと思ってなくて、植民地時代にいっぱいいいこともしてやったじゃないか、その分どうしてくれるんだという態度なので、お金だけで済むならまあお金やってもいいやという感じになったんだと思います。ちょうどそのとき、アメリカも関係あるんです。アメリカは長い間ベトナム戦争をしていて泥沼化していた。評判は悪いし、国内では反戦運動が起こるしお金はかかるし、どこかに手伝ってもらいたい、たとえば韓国に軍隊を派遣してもらいたいと思います。すると当然韓国はアメリカにお金をくれと言うでしょう。ところがアメリカにはそういう余裕はないからアメリカとしては日本にお金をあげてもらって韓国に軍隊を派遣してもらおうと好都合だ。すると日本にも何かしてやらなくてはならないから、たぶんその代りに日本に沖縄返還を約束したと思います。沖縄返還は少し後になりますが。そんなこともあって 65 年に結ばれた日韓条約は妥協の産物で、歴史認識問題がはっきりしたとか、そういうことではなくてうやむやのまま結ばれたんですね。日本は悪いことはしたと思っていますから、賠償金は払いません。けれどもお金はあげましょうというので、「独立祝い金・発展途上国支援金」という名目でお金を出す。けれどもそれは現金をあげるのではなく、その分を品物で、あるいは役務と言って日本人の技師などが技術援助をするということです。そしてそれは経済発展に使えということでした。

少し前後しますが、条約の内容は、日本は日韓併合条約は以前は有効でしたが、「もはや無効」とし、韓国は「そもそも無効」としています。これは平行線のままうやむやになって締結されました。韓国の個人への補償、未払い給与とか軍人恩給といったものですが、日本は個別に払うと言ったんですね。しかし韓国は一括払いを要求し、書類がどうかでうやむやになり、結局それは払わずに「独立祝い金」になったわけです。日本が韓国に残して来た財産は放棄することになりました。

当時、日本でも韓国でも反対運動が起こりました。日本ではそのころ朝鮮半島の二つの国のうち、大韓民国はアメリカの傀儡のような国であり、朝鮮民主主義人民共和国の方が正統な国であるという考え方がかなり強かったです。この条約は北の方を無視して韓国だけを正統な政府と認めるという内容なのでそういう点で反対がありました。韓国ではそもそも歴史認識がなっていないということと、お金は全部ひも付きになっていて結局また日本企業が韓国に進出してくるといことで非常に激しい反対運動が起こりましたが、朴正熙大統領は戒厳令を出して抑えたのです。ですから非常に無理に結んだ、欠陥の多いものだったのです。

いま問題になっている徴用工問題ですが、新日鉄や三菱重工に元徴用工が要求しているのは「反人道的な不法行為」に対する慰謝料ですが、この問題は日韓条約締結のときには全然論じられていません。したがって日本政府が日韓条約で解決済みというのは間違っている、新しく取り組むべきではないかと思えます。

結論として日本は植民地支配が悪かったとは認めないまま結びました。韓国では 1965 年には経済優先で結んだけれども果たしてそれでよかったのかという見直しが進んでいるのです。わたしは日本が変わるべきではないかと思うのですが、それはまたあとでお話しします。

## 2. 韓国の民主化運動と名誉回復

簡単な略年表を作っておきました。ざっとおさらいします。1948 年に済州島の「4・3 事件」。南だけの単独選挙をすると分断が固定されるというので蜂起した反対運動で、結局 3 万人以上が亡くなる悲劇でした。そういうのを押さえつけて 48 年に李承晩が大統領になりました。50 年か

ら 53 年の朝鮮戦争のときには大量の虐殺がありました。体制に反対しそうな人、反対した人ではなくて反対しそうな人をあちこちで大量に虐殺したのです。李承晩大統領は戒厳令とか国家保安法を強化して押さえつけました。何度か大統領選挙がありました、そのたびに票の水増しとか反対票を捨てるとか食べてしまうとか、不正選挙をしました。そういうことに耐えられなくて 1960 年 4 月に「4・19 革命」という、学生たちがデモを始めて全国で大きな反対運動があつて、李承晩大統領を退陣に追い込みます。李承晩は 12 年間も大統領だったんですね。1960 年は日本でも安保闘争をしていたころで、わたしは学生が終わったころでしたが、韓国はすごいなあと思ったことを覚えています。

そのあと、ちょっとこれまでのことを見直そうという動きがあつたんですが、翌 1961 年にはもう朴正熙のクーデターがあつて軍事政権ができました。そのときに日韓条約が結ばれてベトナムに派兵し、経済優先で「漢江の奇跡」と言われる高度成長を成し遂げるわけです。一方で独裁政治に反対する労働運動や学生運動が盛んになります。71 年ぐらになると都市部では野党の方が強くなります。朴正熙は国家非常事態宣言を出して労働者の運動などを押さえつけました。72 年には維新クーデター、これまで大統領は選挙で選ばれていましたが、統一主体国民会議というのを作つてそこで大統領を選ぶ。大統領の権限が強化され独裁の道をつっ走ります。73 年金大中事件では、朴正熙が自分のライバル金大中を抹殺しようとしたのです。「維新反対闘争」が続き、逮捕とか拷問とか、謎の死とか、そういうことがしばしばありました。それでも 78 年の総選挙では、野党が与党を上回り独裁政権も危なくなつてきて、そして 79 年、釜山・馬山で起こった大規模な学生たちのデモに対して朴正熙は軍隊を投入して弾圧するのですが、それがあまりひどいということだったのか、身内に射殺されます。在職期間 18 年でした。

それで「ソウルの春」と言つて、民主化の動きがほんのちょっとあつたのですが、80 年、またしても軍のクーデター。全斗煥が権力を握つて非常戒厳令を出します。それに対して 5 月 18 日、光州の学生や市民たちが「戒厳解除・全斗煥退陣」を要求すると全斗煥は軍隊を投入して徹底的に弾圧しました。しかしその後も抵抗運動は続き、87 年には学生や市民・労働者による「6 月市民大抗争」、史上最大規模のデモが起こつて、ついに大統領直接選挙・任期 5 年とするという新憲法が公布されます。87 年の大統領選挙では金大中と金泳三が出たために共倒れになつて全斗煥の仲間軍人の盧泰愚が当選します。

しかしつぎの金泳三大統領のときには「歴史の見直し」が掲げられて「5・18 民主化運動等に関する特別法」が制定されて、光州の抵抗した人たちの名誉回復がなされます。「暴徒」ではなく、「民主化運動をした革命の闘士」という位置づけになり、97 年に光州事件の「5・18」は国家記念日になりました。

「済州 4・3」についても、ようやく公然と語れるようになって真相調査が進められ、2002 年盧武鉉大統領が国家として申し訳なかつたと謝罪し 2014 年、「4・3」は国家追悼の日と定められます。あとでお話しする東学も「暴徒」と言われていましたが、2004 年に「東学農民革命軍の名誉回復に関する特別法」が制定され、現在は写真のような慰霊碑があちこちに建てられています。たびたびのクーデター、独裁政権の暴力を乗り越えて、労働者・学生らが逮捕・拷問されたり、割腹自殺・焼身自殺をするなど多くの犠牲があつて民主化を勝ちとつた韓国では、いま過去の政府による過ちを見直し、名誉回復・被害への補償が進められています。その情熱的で粘り強い闘いはみごとだと言うしかありません。





### 3. 日本人の近代史認識

この漫画みたいな絵はポーランドのユダヤ人が描いた絵です。かつて教職にあったとき、こういう絵を見せると生徒はショックを受けました。高校生は『アンネの日記』やアウシュヴィッツのことは知っていますが、日本がした悪いことは何も知らないのです。ヒトラーと裕仁さんが同じように扱われているのは、生徒にとってショックです。「日本は何か悪いことしたの？そんなこと聞いてないよ。」日本は正しかった、悪いことなんかしてなかったとずっと思っているのです。悪いことしたことを話すとショックで、「先生、そんなことを言わないで」と言います。なぜそうなのかというと、例えば教科書には朝鮮の植民地支配のことは何も書いてありません。「併合した」「土地調査事業をした」そして欄外に小さく「戦時中に労働者を連行した、慰安婦もいた」とあります。韓国の教科書ならその記述は何ページもあるわけ

です。よほど注意して朝鮮について調べようと思って読まないで見過ごします。植民地支配というものはどういう状況なのか、生徒は何も学ばません。教科書はほんとに心がこもってないです。

なぜそうなのかをもうひとつ、東学を例にとってお話しします。東学とは農民の宗教団体です。初めは朝鮮政府の圧政に抵抗して反乱を起こしますが、それを鎮圧するために清と日本が朝鮮に出兵すると、今度は日本にも抵抗します。それが日清戦争のきっかけになりました。そのことは教科書に書いてあります。けれども東学と日本軍が戦ったことは何も書いてありません。日本は清と戦争する一方東学とも激しく戦います。日本軍には大本営から「皆殺しにしろ」と命令が出ていて、猟銃と弓矢や竹槍しか持っていない農民軍と何カ月も戦います。兵士たちは「何人殺した」とか、「百発百中で愉快だった」「家を焼いた」「大いに拷問した」とか言いながら殲滅します。それに対して東学側では戦うにあたって「なるべく殺すな」と言っているのです。倫理的にとっても高いです。結局追い詰められて農民軍は全滅しその死者は約3万人と言われます。ところがこの戦いは日本の歴史に載っていません。中塚明先生はじめ研究者の方々が探されたのですが、資料はいっぱいあるのです。しかし公式の戦史ではそれらをすべて抹殺して記録に残していません。東学との戦いで戦死者は一人ですが、それさえも清との戦いで死んだことになっています。

朝鮮人は頑張った、能力もある、努力もした。そのことを日本人は知らない。それを抹殺して「朝鮮人は死せる民」（新渡戸稲造）「自らの力で運命を切り開く力は皆無」（司馬遼太郎）と嘘をまき散らし、教科書にも書かないから、朝鮮人は無力で弱い存在だ、生まれながら日本人は上で、朝鮮人は下だという根強い蔑視感が生まれました。

上の三つの話をつなげて理解して下さるといいのですが。いま日本と韓国との関係が悪いです。関係をよくするには、相手をよく知って尊敬し愛さなければならない、そうしなければ友好は結ばれないのではないかと思います。

- 参考書** 中塚明・井上勝生・朴孟洙『東学農民戦争と日本』高文研  
 中塚明『日本人の明治観をたずぬ』高文研  
 高井弘之『「徴用工問題は解決済み」は本当か』第四企画

## 「雲を凌ぐ氣」－雨森芳洲、誠信の交わりをめざして－

作・朗読 ユン

### はじめに

主人公の雨森芳洲は朝鮮通信使の日本側のキーパーソン。朝鮮通信使の偉業を伝える時に、人物の言葉や行動を物語にして伝えたいと思い、韓国の多文化家庭子どもたちの教室では、劇を作り演じた。雨森芳洲と松雲大師、申維翰（朝鮮通信使の記録官）の三人を通して伝えた。

ポイントは朝鮮通信使がどのようにして始まったかだと思った。秀吉の侵略の傷跡を癒す間もなく、朝鮮はいろいろな事情で、日本と和議を結ばなければならなくなった背景がある。対馬藩は、藩の生命線である朝鮮貿易を復活させるため、和議を申し入れ、自主的に朝鮮から連れて来た捕虜（非戦闘員の民間人女性、陶工など）を帰還させた。いわば対馬藩が、徳川幕府を巻き込んで戦後補償にきちんと取り組んだので、和議が成立し関係が修復された。

韓国の継承日本語教育研究会の仲間たちと一緒に、日本の子どもたちに「朝鮮通信使」を伝えたい。誠信の交わりを、日韓関係のひずみを解くカギにしたいと考え、日本での授業を模索した。

ところが、日本の公立小学校で決まりかけていた授業が次々と上からの圧力でできなくなった。同じ時期、佐々木千夏という杉並区議のヘイト発言が報道された。「朝鮮通信使は、略奪、暴力集団だった」というのだ。もはや朝鮮通信使を教材として取り上げることが、歴史修正主義と闘うことになった。日韓関係を修復しようとする歴史修正主義と対決しなければならなくなった。

### 創作朗読になったわけ

「語り」を通して伝える、というのは授業のプロ Y さんが示唆を与えてくれた。「市民のための、市民による、市民の授業」を目ざし創作講談を思いついた。知り合いの神田香織さんに頼み込んで入門させてもらった。教室の先輩の高橋織丸さんが、朝鮮通信使を創作講談にしていると知り同志を得た気分だ。二人で組んで、リレー式講談とか、二言語講談とか、楽しい夢は膨らむ。

今回のネタは、国際人、平和思想家の雨森芳洲だ。芳洲の「誠信外交」は格調高い理想だ。でも少し違和感もあった。和議を結ぶために、対馬藩は国書の偽造もしている。芳洲が自ら朝鮮通信使に同行案内をした時、京都の大仏寺（方広寺）で宴会が開かれた。朝鮮側が気付いて、行くのを嫌がった。「同じ天を仰がず」と言うほど憎んだ豊臣秀吉ゆかりの寺だからだ。それを説き伏せて、ついには大声で威嚇もして連れて行った。「耳塚」は芳洲が新井白石の許可を得て夜のうちにむしろをかぶせて隠しておくことが、役人・芳洲が実行できた最大限の誠意だった。

私は、芳洲を信奉していたので、芳洲が聖人君子ではないとわかってやる気をなくした。所詮は、自分の立場を守ろうとする小役人・芳洲の姿が垣間見えてしまって、白けたのだった。

でも、芳洲は理想を実現できなかったからこそ、自分を責め、反省し、教訓として「誠信外交」をライフワークとして問い続けたのだろうと思う。彼は小役人では終わらなかった。

退職後、通訳養成学校を作り、自ら教師となって「誠信外交」を伝え、朝鮮語を教えた。そして後世まで高く評価される『交隣提醒』を書き残した。

「誠信外交」の基本は何だろうか。相手の文化や考え方を知ることと、隣国とはお互い助け合うこと、友好関係の基本は、相手を理解し尊敬することが大切だと説いた。雨森芳洲には、朝鮮蔑視はなかった。逆に現職の時から、朝鮮を馬鹿にしようとする風潮に憤慨していた。

日本では1990年、盧泰愚大統領が来日時スピーチで、芳洲を「立派な日本人の思想家」として紹介するまで、朝鮮通信使も雨森芳洲も忘れられた歴史だった。その後、学者、市民、教員が通信使研究を活発に行うようになり、教科書にも載るようになったが、今も知らない人も多い。

今回の創作物語の「雲を凌ぐ氣」という題は、芳洲の自筆の書を本で見た時、あまりにかっこいいので、題字にさせていただいた。氣宇壮大な雨森芳洲の生き方を表している気がする。

### 寄せられた手紙から—亡母の友人、浜村さん

母の友人で、歌手の浜村美智子さんが学習会に参加してくれた。数年前、私が、浜村さんを韓国に招待したいと申し出たことがあった。その時は実現しなかったが、日韓関係の悪化が報道される中、「日韓の懸け橋になれることがあったら、いつでも行く」と電話をくださった。

学習会では、「韓国の歴史を勉強したい」と感想も述べられた。後に手紙をくださり、「波多野さんの話が分かりやすかった」こと、「歴史年表をもらって、気になっていたことが調べられるのでよかった」などの感想の他、私の民族名が書かれてあった。「月ちゃん（私の母のこと）が照ちゃんの改名のことで、あんなに心配してたけど、学習会に行ってみれば『どこ吹く風』、あの時の月ちゃんの心配は何だったんだ」と書かれてあった。

父の姓に私は改姓しようと決意した時、母はメチャクチャに反対して、とっくみあいの喧嘩になったりした。私が家庭裁判所で闘っていた頃に、母は心配のあまり浜村さんに相談していたのだ。母は私に「あなたが韓国の名前を名のったら、私まで差別される」と言って止めたので、私は「それでも母親か」と憤慨していたが、そう言ったのはこじつけだったのかもしれない。母は私を差別から守りたい一心であんなことを言ったのだろう、と思うことにする。

浜村さんは私の母から相談されて、「照子なら大丈夫だ」と言ってくれていたと、母から聞いていたのを思い出した。それから40年間も浜村さんがずっと改名のことを覚えていてくださり、だから手紙に「どこ吹く風」の私を「あらためて尊敬する」（気恥ずかしいが）と書いてくださったのだった。浜村さんも、私の名前を気にかけてくださっていたんだなあ、と、母親代わりのお気持ちに感謝した。私からの返事に「もう40年もこの名前で生きて来たので、大丈夫です」と書いて出したが、あれ？やっぱ「どこ吹く風」の様子だったのは、私のことだったらしい。

### 寄せられた手紙から—35年前の改姓運動で出会った友人、Kさん

Kさんから学習会の日のたくさんの写真と一緒に手紙をいただいた。彼は辛口だけど暖かい人だ。「いろいろ周りの人と論争になってしまっごめん」と、手紙は始まっていて、私の朗読に対しては「台本に、もっとユーモアを入れて面白くやってほしい」と注文があった。討論会については、「発題で、在日コリアンのことを全く触れられなかったのは残念だった」、「（テーマが“日韓関係の打開を目指して”であるのに、）打開を目的とした議論はなかった。」と批判を受けた。

### 終わりに

私もKさんに同感するところがある。人々は日韓関係を論じて、在日のことは忘れてる。そして北朝鮮のことも。Kさんが「（韓国の大統領や民主化勢力は）やられた話ばかりするのが気に入らない。植民地支配された方だって悪いのに。（僕は）恥ずかしいよ。戦後補償なんかなくていいよ」と発言したとき、私は戦後補償をして欲しいと思っている立場なので、一瞬困った。

遺骨も返らず、名もなく無残に殺された朝鮮人が大勢いるが、これほど長く、帝国主義に抵抗した歴史も稀だと思う。人々は抵抗運動に立ち上がる時、抵抗せざるを得なくて抵抗したのだ。

今も日本帝国主義のしたことを是正しようとウジヨンさんや普通の人々が、日本製品不買運動をしている。“アジアの支配者”気分のアベ政権に、歴史を清算せよと平和的に意思表示している。

歴史を学ぶ上で、私は気をつけたいと思っていることがある。問題解決につながる学習を、実践的な立場で行いたい。“だから私たちはどうするのか”、を語りたい。つまり、虫けらのように扱われた民族の話（もちろん事実を知ることは重要だが、個人的な思いとしては、その末裔として生まれた私には切ないものがある）を聞くよりも、今どのようにして韓国の民衆と一緒に歩めるか、に関心がある。今後も、日韓の対立からの脱出口を見つけ、憲法を改悪して戦争ができる国にしようとしている政治の大きな流れを変えていきたい。

# 私にとっての「朝鮮通信使」「雨森芳洲」との出会い

高橋(社会人講師)

昨年11月末、日韓伝統芸能交流舞台「パラムコッ舞物語 朝鮮通信使」公演(構成:金春江、演出:李哉尚)の制作を担当し、日本、韓国、在日コリアンの舞踊家、音楽家たちと仕事をした。

その際に韓国版の台本の手直し、映像の手伝いもすることとなり、半年余にわたって「朝鮮通信使」の映画や関連の書籍を片端から熟読した。その中に、今回の舞台では登場しなかったが、江戸時代に中国語、朝鮮語に精通し、日本と朝鮮とが対等平等、そして何よりも互いの文化、習慣を尊重し、国同士だけでなく民衆同士の交流の大切さを訴えた雨森芳洲に出逢い、惹かれていった。そして、ぜひ創作講談「雨森芳洲伝」にできたらと。

そうした思いを強くしていた頃(昨年11月初め)に、私が長年通っている神田香織主宰の講談教室「講談サロン香織倶楽部」に、「雨森芳洲伝」を朗読されている尹チョジャさんが入会されたのである。私のようにわか勉強と違って「朝鮮通信使」「雨森芳洲」について実に詳しい、まさに同好の士を得た思いであった。

私と朝鮮、韓国との出会いは、旧くて新しい。1980年代の頃、在日韓国人政治犯救援運動の支援のための構成舞台や演劇「安重根」の舞台に俳優として出演したことがある。

最近ではく風刺と笑いによるカバレット(政治文化寄席)をめぐり活動している「憲法寄席」でもって、3年前から明治以降の日本・朝鮮の詩人たちの作品を通して、日本と朝鮮との歴史的関係を考えるく朗読、歌、講談による構成舞台

「朝鮮半島と詩人たち」を上演してきた。そのNo3が昨年春上演した「長長秋夜—小熊秀雄と朝鮮」である。

尹さんに誘われて1月18日の学習会に参加した。第1部のH先生のお話は、今日の日韓関係を考える上で、とても示唆に富んだ問題提起であった。朝鮮史については一通り勉強したつもりでいた私でしたが、東学農民運動の持つ意義等について、改めて考えさせられました。と同時に、西洋列強の植民地主義を模倣して近代化を成し遂げ、大東亜共栄圏を築こうとした日本帝国主義のおごりと野望、差別意識は、戦後も形を変えて受け継がれているように思いました。

第二部の尹チョジャさんの朗読「誠信の交わり」は、隣国朝鮮での災害救援のための食糧等支援を対馬の人びとと共に寝る間も惜しんで奔走した77歳の雨森芳洲の「かつての朝鮮の人たちへの後悔があるからこそ、それと向き合い、誠信外交の実現を」という自己反省から生み出された外交の思想「誠信の交わり」は、今の日本の為政者たちに聞かせたい話である。と同時に我々も学ぶべきことが大だといえる。

大きな集会も大事だが、互いの顔が見える小さな学習会。異論を排除せず膝を交えて議論する自由な雰囲気、歴史の学習とともに文化を通じて、日韓、日朝問題を共に考える企画構成。初めての参加であった私も、すぐに打ち解けて討論の輪に参加させて頂き、その後の懇親会にまで参加させて頂いた。日程の都合がつけば、会場で配られた7月末からの対馬交流ツアーにも参加できたらと思いながら、会場を後にした。



## 地域の歴史を掘り起こす…埼玉での取り組み

江藤(川越唐人揃い実行委員会代表)

第1回のN先生の「朝鮮通信使とユネスコ登録の意義」を受けて、第2回は登録のスタートに大事な役割を果たし、地元で現代版「朝鮮通信使」即ち「川越唐人揃い」を復活、15回目の今年、400人余のパレードと観覧者3万人集めたばかりの江藤先生の話を知った。

N先生は、研究スタート時から朝鮮通信使に注目してこられ、お話は全体像を丁寧に説明して下さり感銘深かった。江藤先生は高校教師として、生徒の出会いから問題意識を深め、生徒とともに探求・行動し、歴史を開いた人生を語られた。現在は、被災者や障害者支援にも取り組み、またパンフルートの演奏活動もしている。お話の最後に、演奏も聞かせて下さった。

現代世界の拡がりの中で「自在に」誠実に行動している姿は、時を超え地を超え、学び働き、自らを生きている方だと思った。

- \*最初に、5年くらい前テレビで上映された、県立川越高校放送部の撮影した「川越唐人揃い」のビデオを見た。「今年は、15回目のパレードだったが、雨になったことはない。地元の神社や寺(川越氷川神社、連聲寺など)が守ってくれているのではないかと誇らしげに語られた。
- \*北九州の出身で、近くに八幡製鉄の下請け工場があり、金海や釜山辺りから多くの労働者が下関、門司を通り来ていたのを見聞きして育った。
- \*埼玉県北部の、学力的には高くない高校に勤務した。朝鮮学校との交流会があり、堂々と語る姿を見たことが朝鮮半島との出会いとなった。朝鮮学校が赤羽にあり、生徒同士の喧嘩もあったが、喧嘩することでお互いを知り、仲良くもなっていた。
- \*埼玉県には、渡来人に関連する地域・地名が多い。新座・志木は新羅、熊谷は百済系、高麗は高句麗、飯能はハンナラという説もある。
- \*上福岡で、イジメで殺された在日の林賢一君がいた。行政に謝罪させた。
- \*70年代は、学校で本名を名のらせる運動をした。
- \*「関東大震災で6,000人位の犠牲者がいた」と、みすず書房の『現代史資料』で勉強、中山道沿いに犠牲者が出たが、被害者の名前をはっきりさせる運動を生徒と共にした。生徒は「アジア文化研究会」をつくり、サムルノリの演奏もした。
- \*東松山市にある「吉見百穴」は古墳の跡が、戦時中軍事工場となり、奥に長く掘られ水もたまり放置してあったが、中に入り実態調査をした。生徒は、説明版を作り見学者に説明、後輩の生徒たちも引き継いだ。東松山の名物の「みそ焼き鳥」は、この地下工場づくりに働かされた朝鮮半島の労働者の食べ物で、みそはコチュジャン。
- \*1980年代は、同じ地域に住む在日韓国・朝鮮人との共生の必要性を思い、条例等にある差別条項撤廃をめざし、指紋押捺拒否闘争に取り組んだ。ここで、姜尚中と出会った。
- \*85年には、生徒の「公務員になりたい」という希望をきっかけに、住民基本台帳には日本国籍があるものだけが記載され、外国人は市の人口に数えられていないことを知り、「地方自治法」を読み、訂正させた。
- \*『埼玉とコリア』という本をハンゲル版も併せて作った。コピーして教材として使える形にした。
- \*そうした中で、埼玉は日光への街道が通っているので、各地の神社に通信使を描いた立派な絵



馬が残っていることを知る。川越氷川神社には、「朝鮮通信使行列図」が奉納されている。川越は江戸と水運の便もでき、豪商たちは江戸に店を構えた。豪商の一人榎本弥左衛門は、品川で「通信使」を見た記録を残している。『榎本弥左衛門覚書』（東洋文庫）。江戸時代に商人が記録を残すのは珍しいことだという。氷川神社の祭礼に、川越元町の出し物として「唐人揃い」が出て、一番人気だったという。他にもいろいろな記録があるが、象と一緒に描かれたもの、女性が輿に乗っている絵草紙等、新井白石の領地があった白岡には、白石と通信使との交遊を示す扁額もある。

- \* 妨害もあった。2005年第1回「復活！唐人揃いー朝鮮通信使」は単なる「再現行列」ではなく多文化共生を基本にした新しいパレードをめざしたが、抗議の電話がひっきりなしにあった。パレードにあった統一旗の写真を拡大して、竹島が描かれているのがけしからんとか、上田前知事は、秀吉の時代の朝鮮から日本が「拉致」した人数が不確かだ、訂正しないと後援しない、と言ってきたりした。今年も警戒したが、妨害の電話もなく警備の警官も手持ちぶさたであった。地元にとって、3万人のお客が来ることの経済効果は大きく、定着している。実行委員会は、行政から経済的援助は受けないが対立しないでやっていきたい。
- \* 多文化共生・国際交流パレードで、今年はタイ人が多かった、釜山芸術団、アイヌの方々、沖縄大好き・埼玉エイサー隊等々。
- \* 現在、風の音のようなパンフルートに魅せられている。パンフルートは、ギリシャ神話の牧神の吹く笛で、シルクロードを通過して7世紀に日本に伝わり正倉院にある絵図にも描かれている。呼ばれば、演奏活動もしている。

#### 《会場からの質問への回答、発言》

- \* 古代、多くの渡来人が来た埼玉でも、その子孫も混じりあい、すでに日本人になっているので、他の地域と変わらない差別がある。
- \* 通信使の行列があったことを示す跡は、新橋、上野、品川にも残されている。パレードが行われている地域は、対馬、下関、馬関、牛窓、上関、近江八幡などで、時々している。
- \* 韓国で子育てをされていて今は日本にいるものですが、通信使を在韓の子どもたちにも教えようと絵本を作った。在日の子どもたちにもとハンゲル版の翻訳もできている。監修者が決まれば出版できると思う。
- \* 新宿の住民で、この近くで小学校の教師をしていた。2016年には「韓国・朝鮮人は帰れ」さらにエスカレートして「殺せ」というようなヘイトが横行した。共生できるようにしていきたい。
- \* 江藤先生の凄いところは、今も、障害者支援、災害支援に関わっているところです。
- \* 学習会が終わって、半数以上の方が近くの高麗博物館に行き、開催中の「江戸時代の朝鮮通信使展」を見学した。貴重な資料や図・写真を見せていただき熱心な説明を聞いた。

最後に、先生が持参・販売され、執筆者の一人になっている『信一今よみがえる唐人揃い 川越と朝鮮通信使』には、最後尾に「秘話 関東大震災と川越」が載っている。要点を紹介したい。

大震災にあたって、川越市には18人の朝鮮人と2人の中国人が住んでいたが、いきり立った市民の手から彼らを守るため、20人を市役所裏庭と警察署に保護、金品の寄贈・被服の供与をした。その結果、昭和30年代まで9月1日には、朝鮮や中国の人々から感謝の手紙や物品が届いた。…こんなことができたのは、川越市民の国際感覚と豊かさが理由として挙げられていました。

本当に辛い虐殺の事実や、手を下すように仕向けられその後苦しんだ人を思うとき、川越市の「唐人揃い」にみる伝統の重みを感じ、これからの指針を見た思いになった。

# 江藤さんの講演を聞いて

長内

私は日韓合同授業研究会に参加し始めて1年弱の者です。教職には就いておらず、普段は貿易関係の会社で仕事をしています。日韓アジア基金の繋がりで波多野さんに声を掛けていただいたことがきっかけで参加するようになりました。

今回は朝鮮通信使の学習会シリーズ、私が幼少期から暮らして来た埼玉と関係したお話が聞けるということでとても楽しみにしていました。余談ですが、学習会の前週には江藤さんのパンフルートのコンサートにも行き、そこでも日韓を感じる事が出来ました。

講演会を聞いた1番の印象は、私が埼玉育ちであると話すこと自体が恥ずかしいと思いました。江藤さんは主に埼玉でのご自身の経験を混ぜながら、埼玉と朝鮮との縁をお話してくださいましたが、私は本当に何1つ知らなかったのです。

特に印象的だったのは、埼玉には高麗以外にも新羅や百済など大昔から朝鮮半島の国名からつuitと考えられる地名がたくさんあること、つい最近まで行政による在日韓国・朝鮮人に対する差別があったことです。小学生の頃、地域学習をたくさんしたことを覚えています。しかし、こんなにも埼玉に韓国・朝鮮との関わりがあるとは知りませんでした。また、私はすでに外国が割と身近になっている時代に育ったため、外国籍の方達がどれだけ行政に苦しめられているのかも良く知りませんでした。もちろん今でも、在日外国人に対する日本の行政のあり方は課題があると思います。自分なりにもっと理解を深めて行ければいいなと思いました。

江藤さんが実行委員会代表を務めていらっしゃる川越唐人揃いについてのエピソードもたくさん伺いました。実現するまでに、また、実現してからも苦労がたくさんあったそうですが、日韓の枠を超えた国際的なお祭りとして長く開催されていることが素晴らしいと思いました。歴史は忘れられて欲しくないと思いますし、日韓の友好の証が長く後世に伝わって欲しいと心から思いました。

この日は、江藤さんの講演が終了し、高麗博物館へ移動しました。こちらは様々な資料を目で見ながら、解説員の方々のお話を聞き、さらに理解が深まりました。ここで更に驚いたことは、私の職場の近くに朝鮮通信使の足跡があったことです。よく勉強されているみなさんにとっては常識のようなのですが、私はそんなことも知らず恥ずかしいと思いながら、また1つ自分に韓国の縁を感じました。

私がこの会に参加している理由の1つに、私と同じような無知な若者がこれからもっと増えると考えられる中で、私がこの会のために出来る事が何かあればいいと言った思いがあります。この会のみなさんの優しさと、学びの内容は他では得ることの出来ないとても貴重なものだと考えています。私もこの会でたくさんを学び、次の世代へ伝えていけるような人になりたいです。今年はぜひ交流会に参加をして、朝鮮通信使への理解をさらに深めたいです。



テーマ (案)

## 対馬の地で考える、世界（東アジア）の平和

### —朝鮮通信使の誠信の交わりから学ぶ—

日韓関係が厳しい時代となっています。戦後、加害の歴史を反省し謝罪することなく合意した日韓条約を盾に、「いつまで謝るのか」という日本政府に対し、韓国では「安倍 NO」の声が沸き上がっています。このような中、9月には杉並区議による「朝鮮通信使は凶悪犯罪者集団」などというヘイト発言がありました。

江戸時代の朝鮮通信使も秀吉の侵略により友好関係が断ち切られた中で、戦後補償の交渉として両国の努力によって始まり、豊かな文化交流へと結びついたものです。心を尽くし知恵を尽くして200年間もの善隣友好を築いた朝鮮通信使の歴史から、今、私たちが平和に向けてどのように向かい合うのかを学びたいと願っています。

主催 日韓合同授業研究会 韓日合同教育研究会

期日 2020年7月31日(金)～8月3日(月) 3泊4日

会場・宿泊施設 対馬市交流センター 電話: ホテル対馬 電話: 0920-52-7711

日程 (案)

7月31日(1日目) 16:00 ホテル集合

開会式

講演「朝鮮通信使とユネスコ世界記憶遺産登録」(仮題)

町田一仁さん(対馬市国際交流課、対馬朝鮮通信使資料博物館、縁地  
連役員)

8月1日(2日目) 日韓両国の授業報告

8月2日(3日目) フィールドワーク 万松院、長寿院、漂民家、対馬まつりの朝鮮通信使  
再現パレードと、国書交換セレモニー  
レセプション

8月3日(4日目) まとめの討論 閉会式 昼食後解散

参加費 全日程参加 35,000円 高校生 25,000円 (予定) 年会費 3,000円もお願いします。

○ | ㄹ ㅎ | ㄹ ㅎ | ㅁ ㄷ ㅂ ㅅ ㅈ ㅇ | ㅁ ㅇ ㅋ ㄴ ㄷ ㅎ ㅂ ㅇ | ㄹ ㅎ | ㄹ ㅎ | ㅁ ㄷ ㅂ ㅅ ㅈ ㅇ | ㅁ ㅇ ㅋ ㄴ ㄷ ㅎ ㅂ ㅇ

## 映画『マルモイ(말모이)』(2019年韓国公開)について

遠藤

1月25日付朝日新聞インターネット版 GLOBE で、本作品が今春日本で公開予定であるという成川彩さん(映画ライター)の記事を見て少し驚いたので、ある在日コリアンに伝えたところ、「日本人がこの映画をどのように受けとめるだろうか。少し心配だ」という答が返ってきた。

さて、その後上映館、上映日程は決まったのかと気になりインターネット検索しているが、本稿を記している2月12日現在、その情報は入手できないでいる。

はたして本当に公開されるのか。『パラサイト(原作名:『기생충(寄生虫)』)』のようにカンヌ国際映画祭パルムドール賞受賞作品ならともかく、へたをしたら「また反日か」という範疇に落とし込まれてしまわないか、であれば上映されないのではないかという不安も頭をよぎる。

監督はオムユナ、『タクシー運転手』にも出演したユヘジンらの俳優が登場する。ユヘジンは文字を知らない人間であったが、だんだんと目覚めていく姿で役を演じている。インターネットにより少し内容を紹介しておこう。<https://movie.daum.net/moviedb/main?movieId=118907> 2020.2.12 検索

…1940年代朝鮮語がだんだん消えていく「京城」。劇場を解雇された後、息子の学費のためカバンを盗んだが失敗したパンス(ユヘジン)。そのパンスがよりによって面接を受けた朝鮮語学会の代表がカバンの持ち主チョンファンだ。辞書を作るのに前科者だなんて!しかし、パンスを歓迎する会員たちに押されて、チョンファンは読み書きを学ぶという条件で彼を受け入れる。

金にもならないことばを一体全体どうして集めるのかと思ったパンスだが、生まれて初めて文字を読み朝鮮語の大切さに目覚める。チョンファンもまた全国の方言を集める「マルモイ(ことば集め)」に力を入れるパンスを通じて「ウリ(私たち)」の大切さに目覚める。時間がないなか、迫りくる日帝の監視を避け、マルモイを終えなければならないのに…

このように本作品は朝鮮語学会による朝鮮語辞典編纂事業と、朝鮮総督府による弾圧、朝鮮語学会事件を描いたものだ。

そもそも、朝鮮語学会とはいかなるものか。韓国併合以前から進められていたハングル運動や周時経の系譜を引く、学校の朝鮮人教師や学者たちが集まり、1921年に作られた朝鮮語研究推進団体である朝鮮語研究会が前身である。1931年、朝鮮語学会と改称した。1932年、機関誌『ハングル』を創刊し、1933年にハングル正書法統一案を発表したほか、標準語査定、外来語表記法等の事業等、朝鮮語の整理、そして朝鮮語辞典編纂事業に着手していった。しかし、総督府は1942年から李克魯、崔鉉培、李熙昇らをはじめ朝鮮語学会会員33名を治安維持法違反で検挙した。うち、2名は拷問死した。辞書カードは総督府が押収した。

自らの言語を守ることすら、大きな苦難に直面しなければならなかった。

実は、現在の南北のハングル正書法が大きく違わないのは、ハングル正書法統一案があったからこそであるし、解放後朝鮮語学会会員らが中心になって南北の言語整理事業にあたっていったのである。その成果は、解放後南北で編纂された韓国語/朝鮮語辞典として結実している。

本作品の中には、パンスの子どもが通う京城中学での日本語による授業場面も出てくる。こういった場面を通して、植民地支配下における朝鮮語とは何だったのかを改めて考えることができる。

悪化している日韓関係とは反対に、今中高生の間ではK-POPが大流行し、このブームに触発され、自ら韓国語を学ぶ中高生も増えている。

韓国語/朝鮮語にはどのような歴史があり、それを韓国ではどのようにとらえているのか。韓国での観客数は2019年11月3日現在、約290万名だという。日本で韓国語を学ぶ人たちにぜひ観てほしい作品だ。私はCDによりパソコンで観たが、映画館の大画面で、考えながらじっくり鑑賞してみたい。

ウリ121号 2020年2月24日

日韓合同授業研究会

事務局連絡先 E-mail: larrabee1991@yahoo.co.jp